



延宝2年上芦川村絵図（1674年）



藤原家住宅屋根裏



再生された藤原家住宅（18世紀中頃）

笛吹市探訪

再生された古民家

（上芦川を訪ねて）

若彦路トンネルの開通と農産物直売所「おごっそう家」の開店を契機に、芦川町には多くの人々が訪れるようになりました。兜造民家と傾斜地に築かれた石垣や集落内を流れる水路、路沿いの石造物とが織り成す風景を求めて、カメ

ラを片手に歩く人々の姿も多くなってきました。涼やかな風が心地よい芦川の夏がやってくる前に、芦川の魅力の一部を紹介したいと思います。まずは、上芦川から・・・
古文書から見えてきた上芦川集落の歴史

上芦川地区は、甲斐の古道「若彦路」沿いにひろがる集落で、戦国時代以降、関所（口留番所）が置かれていました。

戦国時代から江戸時代初期にかけて、関所は上芦川諏訪神社の東側、若彦路が鍵の手状に折れ曲るあたりに設けられていたと考えられます。その後、宝永2年（1705年）までに、今の東林寺付近に移転しました。

上芦川集落に伝わる古文書や絵図を紐解くと、慶長7年（1600年）には旧関所付近の若彦路が

鍵の手状に屈曲する付近に九軒の屋敷があったことが記載されています。江戸時代以降、集落はそこから徐々に東に広がり、口留番所や東林寺の移転を伴いながら今に至っています。

若彦路沿いの景観

甲府盆地から新鳥坂トンネルを越え、芦川に入ると、ケヤキの巨木群が見えてきます。そこは市の天然記念物に指定されている上芦川

の諏訪神社のケヤキ群です。諏訪神社前の石垣には馬頭観音が並んでいます。若彦路を東に進むと道が折れ曲がります。この付近が前述の旧屋敷地と旧関所跡となっていて、現在でも17世紀に建てられた家が残っています。旧関所跡を抜けてさらに東に進むと日蓮宗の由緒ある古い寺、東林寺山門にあたります。山門脇には、あまりみられなくなつた二股塔婆が立っかけてられています。この山門付近が移転した口留番所跡地です。木々に囲まれた水路を渡り、上芦川集落でも比較的新しい集落に入

つてきます。新しい集落とはいえ、そこには18世紀、19世紀の兜造民

家が多く残り、石垣や水路と併せて歴史的な景観が広がっています。
再生された古民家

上芦川地域では、既に二棟の兜造民家が再生、活用されています。一棟は上芦川集落の東端に位置する明治時代後期の建物で、「てんころりん村」という団体によって古民家体験施設「農啓庵」として活用されています。

平成23年度には、市によって18世紀中頃に建てられた兜造民家「藤原家」の半解体修理が行われました。この施設では、大黒柱や梁に刻まれた手斧による加工跡など、江戸時代の建築の技を身近に見ることができます。今後、体験型施設として活用していく計画です。

トンネルの開通や農産物直売所によって、上芦川地域を訪れる方が増えてきましたが、芦川地域の本当の魅力は集落の中を散策してみないと発見できません。「おごっそう家」から諏訪神社、さらに再生された古民家まで、魅力を探しながらゆつくり歩いてみませんか。